

にようろこうじ

平成 29 年
第 65 号
12月13日発行

発行者



医療法人社団
小島医院

高岡市東中川町6-10
TEL 26-1020
FAX 26-0573

<http://www.kojimaiin.com>

総火演

小島 明

今年度の富士総合火力演習を見学してきた。

八月二十六日午後一時妻と二人で、東海北陸道ー新東名高速道を通り、約六時間で箱根に着いた。翌日は午前七時出発し、御殿場市内の指定駐車場に着いて、バスで富士山麓の演習場に向かった。周辺の草木は火山灰で真っ白になっていた。バス停車所から会場まで歩いたが、人混みの中、重いリュックを背負って、坂道を砂ぼこりと汗にまみれて大変だった。

会場の座席はパイプ構造で、私達は上から二段目に座れた。その後観客が続々と増え、パイプ席が満杯になると前方のシートになった。富士山を真正面に見る会場で、午前十時から演習が始まった。りゅう弾砲、迫撃砲、機銃、小銃、装



甲戦闘車やヘリが実弾を発射し、戦車が登場した。プラモデルでお馴染みの、七四式、九〇式、一〇式が走り回り、実弾発射の轟音に圧倒された。すべて標的に命中した。続いて、占領された島嶼部を奪回するというシナリオで、戦闘ヘリの攻撃、りゅう弾砲、迫撃砲、戦車が実弾射撃し、前方数キロの丘陵が白煙に包まれると、轟音が響いてきて、観客席から、ウオーという歓声が上がった。



真夏の炎天下の見学で見ているため汗は流れ、シート席はもっと辛かったらと思う。終了後は混乱状態で、私はリュックが重くて転倒してしまった。雨天決行とのことで雨具その他で片手では持ち上がらない程だったが、妻が被いてくれた。混乱の中をやっとバス停にたどり着いて、午後八時に帰宅した。御殿場在住の友人Drに大変世話になり、感謝しています。

私の明治維新一五〇年

上野 亮平

今年には明治維新一五〇年の節目の年。この間を半知半解で偏見を容赦の上私見を述べたい。最大の国難は、日露・太平洋の両戦争であり、その結果この国のかたちが一変した。

古来、この国のかたちは外圧により変化してきた。まず、古代六七三年「白村江の戦い」で唐・新羅の連合軍に敗れ、律令国家と変貌。

七百年続いた武家政権を崩壊させたのもペリー来航を始め欧米列強の帝国主義による外圧であった。植民地化こそ逃れたものの、「関税の自主権なし」「治外法権の容認」と屈辱的な条件で余儀なく開国させられた。

これが為、薩・長を中心の西国雄藩により政府は倒れ、明治政府が誕生した。新政権は不平等条約の改正を悲願とし、「富国強兵」を国策とした。憲法の制定、国会の開設等アジアで最初の近代国家の体を成した。

米しか産業のない我が国。富岡製糸場、八幡製鉄所など殖産興業

に力を入れた。更に、徴兵制と軍事力の強化を急いだ。この背景にはロシアの南下政策があった。満州、朝鮮を侵略し、「次は日本だ」と国民は慄いた。日清戦争も朝鮮問題が発端だった。勝ち得た遼東半島も三国干渉により元に戻された。

この屈辱に「臥薪嘗胆」を合言葉に対露戦へと向かった。当時、伊藤博文ら維新の元老は消極的な反面、桂太郎ら若手政府は戦争以外に生きる道はなしと積極的であった。マスコミ、学会など外野は戦争へと声高に煽った。

苦渋の選択の上、開戦へと踏み切った。しかし、昭和の態勢と異なるところは、政府と軍が一体、更に外債の募集、情報の取集、日英同盟の活用などで終戦、講和に持ち込むか打つべき手を全て整えたところであった。

戦況は、陸軍は「二〇三高地」の死山血河の如く全くの辛勝、奉天の戦いでは力尽き果てていた。海軍はバルチック艦隊を全滅させた「日本海海戦」の勝利が大きく喧伝されたことにより、国民は大勝と思い込み、マスコミもこれを煽った。

この僅差の勝利が軍部を中心に国の大勢が夜郎自大に走り、「統帥権」を片手に国民を犠牲にして、遂に国を滅ぼす結果となった。

昭和のことは人口に膾炙されているので詳細は省くが、戦争回避に三つのターニングポイントがあった。一つは昭和六年の満州事変のリットン調査団に対して国連を脱退した。二つは昭和十二年の支那事変にドイツのトラウトマンの和平仲介に近衛首相は「国民政府を対手とせず」とチャンスを逸した。三つは昭和十五年の三国同盟である。石油や鉄等軍需品は米国依存、この同盟で完全に米国を激怒させた。以降坂を転げるように戦争に突き進み、維新以来、僅か八十年で国を滅ぼした。

勤勉で粘り強い国民は敗戦でも挫けなかった。GHQ・マッカーサー指令にも素直に受け入れつつ、国情に合った「民主主義」「基本的人権の尊重」「恒久平和主義」をこの国のかたちとした。「日本国憲法」の下で力強く再建へと向かった。

昭和三十一年の経済白書では「もはや戦後ではない」と発表され、四十年から五十年代には世界第2

位の経済大国として、国民は皆「中流意識」を持つように成長した。昭和から平成にかけ、バブル崩壊、少子高齢化で国の財政悪化、更にはIT社会、新自由主義、グローバルリズムが侵入。貧富や地域及び世代間などに格差社会が生じてきた。国際情勢の影響が国のことを変えつつある。

今、我が国の課題は「少子化による人口減」「世界各国がナショナリズムによる右傾化」への対応である。国を疲弊化し国民を塗炭の苦しみに味合わせた先の大戦。

その中からつかんだ三本の柱とした「この国のかたち」。憲法は不磨の大典とは思われないが、不易流行である。基本は変えてはならない。大国主義に走らず、国民みんなが平和の中、平等かつ健康で幸せを味わう社会へと願っている。

開院30周年企画

院長先生に

インタビュー

Q、開院30周年を迎えて思う事

長く生きてきたと思う。60歳が寿命と思っていた。

Q、仕事に対する、

ポリシーやこだわり
専門の泌尿器科だけでなく、開業医として恥ずかしくないように、専門書を読み努力をしている。

Q、今後チャレンジしたい事

(仕事、私生活どちらでも)
後期高齢者として、他人に迷惑をかけずに人生を送りたい。
開業50周年まで生きていたい。

Q、職員に持つほしい目標

医院の役割は何かと考えて仕事をしたい。

Q、先生の子供時代を教えてください。

さい。性格や好きだった遊びなど自然の中で、のびのびと遊んでいた。田圃や川で、タニシや小魚をとって遊んだり食べたりしていた。

Q、学生時代、頑張っていた事

中学校の時より、剣道をしてきた。大学まで続いたが、就職してからは全くしていない。

Q、医者になつていなかったら、

なつていた職業は？

森 鷗外の小説を読んだりして、医学は文科系と思っていた。小説を書いていたかもしれない。

お祝いの言葉

開業30周年

おめでとうございます

腎友会代表 村田 太一

一言で30年と言いますが山あり谷ありと大変な御苦労を乗り越えての今日の結果があると思います。私達、腎友会も心よりお祝い申し上げます。

私達、腎友会も今、色々な課題もありますが小島先生やスタッフの皆様のご指導、ご協力を得て活動を進めている所です。

小島先生、今後共よろしくお願ひ致します。

小島先生にはこれからも健康に留意され35周年、40周年と益々ご活躍して下さいさる事をお願い申し上げます。

開院30周年

おめでとうございます

瘡師 満

開院30周年おめでとうございます。昭和62年12月からお世話になり他の透析施設で透析することも



無く、通え続けられ感謝しています。最近では合併症が始め、今まで以上に先生、スタッフの方々に負担をかけると思えますがよろしくお願ひします。

開院30周年

おめでとうございます

前田 明良

開院30周年誠におめでとうございます。

院長先生はじめスタッフの皆様には日頃より大変お世話になっており家族共々感謝の言葉しかございません。

小島先生とは私が透析治療開始となった34年前、砺波総合病院で勤務されていたときからのお付き合いになります。

その後、妻と子供二男にも恵まれ献腎移植されたにもかかわらず生着せず透析にもどり、現会社に転職し早18年、昼夜を問わずフルタイム勤務できるのも先生やスタッフの皆様のご理解があるからと本当に感謝いたしております。

しかし寄る年波には勝てず最近ではあちこちに痛みがでてきて先生やスタッフ、家族にも心配をかけるありさまになってまいりました。

「もう、じじいなんだから無理はあかんよお」と、いつもAさんに言われています。(笑)と、言うことで地元の雅楽会での活動も頑張らないといけないしそろそろ仕事の方も控えめにしようと思います。

院長先生もいつまでもお元気で我々患者のためにも頑張っていただきますよう心からお祈り申し上げます。開院30周年お祝いの言葉とします。

開院30周年

おめでとうございます

臨床工学士主任 南 勝朗

30周年おめでとうございます。

決して順風満帆ではなかったかも知れませんが先生の御人柄が地域の皆様に愛されて今日まで来られたのだと思います。30年間お疲れさまです。そして、次は先生の目標である50周年を目指してご自愛いただきながら診療を続けていたきたいと思います。私たち職員もその一助になればと思ひ頑張りますので宜しくお願い致します。

社員旅行

平成29年9月16日(土)〜18日(月)、開院30周年を記念し、社員旅行へ行ってきました。



一日目は箱根観光。芦ノ湖を海賊船で遊覧、ロープウェイや登山鉄道に乗り、箱根をぐるっと一周してきました。台風の影響で霧がかかり、特にロープウェイでは何も見えませんでした。



天候が良ければ、富士山が見えただけに残念でした。(次頁へ)

二日目は、箱根駅周辺を散策後、東京駅へ。夕食は屋形船で宴会の予定でしたが、台風により中止となり、横浜中華街での食事・散策後、横浜ランドマークタワー展望フロア「スカイガーデン」にて夜景を楽しみました。



三日目は、お昼過ぎまで自由行動、ゆっくりと高岡へ帰って来ました。

今回の旅行は天候に恵まれず、予定通りにはいきませんでしたが大勢での旅行は賑やかで、移動中のお酒が進み、もちろん食事中のお酒も進み、携帯電話を忘れたり、乗り物酔いで大変な思いをしたり、思い出深い楽しい旅行となりました。

インフルエンザと風邪の体感的な違い！

【インフルエンザの特徴1】 急な高熱

風邪の場合、じわじわ熱が高くなりますが、インフルエンザの場合 "急に" 38度を超える高熱に犯されます。

ただしA型ではなくB型インフルエンザ（2月～3月に流行・消化器系の症状が主）の場合、平熱や微熱の場合もあるので熱がなくても要注意。

【インフルエンザの特徴2】 全身の症状

風邪の時よりも "全身の症状" 痛み、だるさ、筋肉痛が現れます。

【インフルエンザの特徴3】 呼吸器系の症状は最初は少ない

咳やくしゃみ、鼻水などの呼吸器系の症状は、風邪に比べてインフルエンザでは最初現れにくいという特徴があります。インフルエンザの場合、高熱が治まった後にこれらの症状があらわれるのです。以上の特徴があればインフルエンザの可能性が高いと言えます。

インフルエンザでも、高熱がでない症例もあるので、熱以外でも少しでも怪しいと思ったら、まずは検査を受けるのが大事です。

インフルエンザの予防接種を受けられる方は早めに接種しましょう。

編集後記

今年の冬至は、十二月二十二日となっております。

なぜ、冬至にカボチャやゆず湯なのかご存知ですか？カボチャは「南瓜（なんきん）と呼ばれます。

最後に「ん」のつく食べ物は運が良くなる食べ物と言われていたことや、本来、夏野菜のカボチャは、陽の気を持つものとして、一年で最も陰の日（冬至）に食べると言う意味もあるそうです。

ゆず湯は、香りの強い柚子を入れることによって邪気を払い、運を呼び込む前に体を清めるといった意味があり、また、『融通が効く湯治』柚子が効く冬至』といった語呂遊びの要素もあったようです。

寒い季節には是非、カボチャを食べ、ゆず湯に入ってたくさんの運を味方につけて下さい。

